

NEWS

Vol.20

発行 財団法人骨髓移植推進財団
 発行責任者 高久史磨（理事長）
 編集責任者 埴岡健一（事務局長）
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F
 Tel 03-5280-8111 Fax 03-5280-0101
 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp/>
 ドナーズネット <http://www.donorsnet.net/>



Message

言葉はそれぞれ
 いろいろだけど
 伝えたい思いはひとつ
命のために...



hideさんメモリアルデー 生きつづけるメッセージ

世界でも23例しかないという先天性代謝異常の病を抱えていた貴志真由子さん（21歳）との交流をきっかけに、1996年8月に骨髓ドナー登録したカリスマ的ロックグループ「X JAPAN」のメンバー、hide（ヒデ）さん。その突然の事故死から4回目の春を迎えた今年、命日にあたる5月2日に「hideミュージアム」（横須賀市平成町）で追悼イベントが開かれました。

場内に設けられた骨髓バンクのブースでは、hideさんの弟さんの計らいにより、真由子さんが作った小物と、hideさんのご両親が作られたバスタオルが特別販売され、売上の半分は当財団とメイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン（難病とたたかっている子どもたちの夢をかなえるための活動を行っている団体）に寄付されました。

真由子さんはメイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンを通じて、95年に憧れの

hideさんと対面。96年の3月、骨髓移植を受けた真由子さんが手術直後、容態が悪化して危篤状態に陥った時、hideさんは入院先の伊勢原市内の病院に駆けつけ、無菌室のガラス越しに数時間、彼女を励まし続けたといいます。hideさんが骨髓バンクのドナー登録をしたきっかけでした。

「あんまり深く考えているんじゃないくて、ただ単純に行動したかったんです」という言葉は多くの人の共感を呼び、ドナー登録者の大きな増加につながりました。

hideさんにちなんだ、思いおもいの衣装に身を包んだ多くの人々が、ブースの中の真由子さんと挨拶を交わす光景は、一人のロックミュージシャンから若者たちの心に伝えられたメッセージが今もしっかり生きつづけていることを物語っていました。

CONTENTS

hideさんメモリアルデー	1
『命』こめられたふたつのメッセージ	
元気になりました 辻尾冬子さん	2
2回目の提供です 杉本はるみさん	3
大反響 『プロジェクトX』	4
日本骨髓バンクの現状	5
ご支援ありがとうございます	
ドナー休暇制度ほか	6
ドナーアンケート速報ほか	7
募金のお願い	8

元気に
なりました

命の贈り物が教えてくれた 誰かのために何かをすること

99年移植・東京都在住
辻尾冬子さん

ある日、突然
病気になるって…

「病気になるってよかったのかもしれない。はじめて見えたものがたくさんあったから」。辻尾冬子さんは、はつきりと言いつつ切った。

5年前の春、主婦検診で要検査といわれ、慢性白血病と診断された。結婚した次の年のことだった。

それまで病気とは全く無縁だったから、実感が湧かなかった。むしろ、周囲の狼狽に戸惑った。

「5年後の治療率は50パーセント」医師からそう聞いたときは、さすがにショックだった。傍には夫がいてくれた。にもかかわらず、「なぜ私か」と、行き所のない不安と、怒りを抑えきれなかった。

化学療法を続け、1年後に患者登録した。40度の発熱と、大腿骨の激痛で車椅子が必要な状態になっていた。それなのに不思議と冷静だった。入退院を繰り返しているうちに仲間ができた。病気のことで、治療や薬のこといろいろ話した。励ましたり、なぐさめられたりしながら、みんな懸命に生きよつとしていた。



親よりも 親みたい人

発病から2年、移植を希望してから半年。移植を受けた。

「骨髄を提供してくれたのはどんな人だろう」

移植後、体力が順調に回復してきた病床で思いをめぐらした。親にもできないことをしてくれた名前も顔も知らない人を思い浮かべるたび、胸がいっぱいになった。

「いのちのこと、人のために何かをすること、考えたこともなかった。どれほど周りにささえられていくかも、初めて知った」

すっかり元気になった辻尾さんは、骨髄バンクの事務局でボランティアとして活動を始めた。自らのホームページを立ち上げ、体験も公表した。自分を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちと、いま病氣と闘っている人たちを励ましたいという思いから、ドナー登録呼びかけのメッセージも送り続けたいという。

「元気で生き続け、一人でも多くの患者さんがよくなるよう祈りたい。それがドナーの方がくださった『いのち』にこめられたものだと思うから」

辻尾さんは、いのちを見守ってくれているドナーの方の限りなく温かい視線を、いつも感じている。

INFORMATION

「セカンドオピニオン医師リスト」が完成しました

当財団医療委員会では「セカンドオピニオン医師リスト」を作成し、運用を開始しました。

ここでいう「セカンドオピニオン医師」とは、骨髄バンクに登録中もしくは登録を検討中の患者さんの相談にご協力いただける医師のことです。認定施設病院の連絡責任医師を中心に、専門とする疾患や年齢、参加の可否についてのアンケートを実施。これに基づき作成したリストには、

6月11日現在、全国で131人の医師が参加しています。納得した診療を受けるためには、主治医とよく相談されることが最も大切ですが、このリストを参考に、他の専門医の診察を受けセカンドオピニオンを得ることで、より適切な治療の選択のために役立てていただければ幸いです。お問い合わせは「患者問い合わせ窓口」(電話03-3296-8699)まで。

2回目の提供です

たくさんの人に伝えたい大切な「宝物」のこと

96年、01年提供・埼玉県入間市在住 杉本はるみさん

「弟」の次に「お姉さん」きょうだいが増えた!

「昨年、採取針の痕、96年の提供のときは、腰の左右に横長の5ミリくらいのが1カ所ずつ。2回目はアナボコみたいのが2カ所ずつ。」

「違いをたずねた。」

「まず、採取針の痕、96年の提供のときは、腰の左右に横長の5ミリくらいのが1カ所ずつ。2回目はアナボコみたいのが2カ所ずつ。」

「採取痕をノートに描いて説明してくれた。職業はイラストレーター、うまいものである。」

「杉本さんいわく「これは、実のきょうだい以上の血縁ができた証。だつてね、宝くじに2回当たる人も少ないでしょ。患者さんの性別と年代は教えてもらえるけれど、5年前には弟ができて、今度はお姉さんができたというわけ。お尻のホシは宝物。幸運の星なの。」

「1回目のときは、麻酔から覚めたとき、のどが痛くて一晩中せきがでた。2回目は全く痛くなかったけれど、食欲はなかった」

「適合通知がきてから、採取して退院までが、5年前は7カ月だったの



「が、今度はたったの2カ月だった」
「ドナーになって
毎日の暮らしが変わった!」

「数万分の1の確率で白血球が一致し、最初に骨髓ドナーとなってから杉本さんの生活が、変わった。」

「ドナー体験記を書いた。もちろんイラストマンガだ。たくさんの人に素晴らしい体験を知ってもらいたくて、手作りの冊子にして友人・知人

「に配って歩いた。」

「骨髓バンクの普及活動にボランティアとして積極的に参加した。講演に参加して自身の体験を話す回数も増えた。」

「講演で体験を話す時は、宝物を自慢するような気持ちになるの。2回目の提供でその宝物がまたひとつ増えた。今度は「お姉さん」のことも話します。」

「東京都東久留米市の小学校では、道徳の時間に「金色のくじら」の紙芝居を上演したことがある。」

「その後に、ドナー体験を話した。感想を聞かれたある男の子が言った。「ボク、大きくなったらドナーになります!」」

「いのちの大切さが伝われば十分だと思っていた杉本さんは、胸が熱くなったという。」

「自分のいのちがもうひとつのいのちのチャンスにつながり、人の役に立てる。その貴重な体験がまた別の人の感動につながる。」

「そんなめぐり合いへの感謝の気持ち

「ちをこれからもたくさんの人に伝えていきたい」

「採取痕が日々薄くなり、消えかかっているのが残念だと語る杉本さん。「2つの宝物が3つになればいいな」と笑った。」

「現在、「イラスト・ドナー体験記パートII」も作成中だ。」

INFORMATION

2回目の骨髓提供者、以降のドナー登録については期間未定で保留に

「骨髓バンクを通じて2回骨髓提供をされた方の今後のドナー登録について、当財団は期間未定で、いったん保留とすることにしました。」

「健康上の問題が起こったわけではありませんが、非血縁ドナーは多くの善意のボランティアであることから、3回目の提供については慎重に対応すべく検討を始めることになったためです。」

NHK総合テレビ番組・プロジェクトX 挑戦者たち『決断 命の一滴』

大反響！ (2/26放映)

確かに伝わったメッセージ

毎回の視聴者数1200万人ともいわれているドキュメンタリー番組『プロジェクトX』で、骨髄バンクが取り上げられた。現在の骨髄バンクの前身にあたる東海骨髄バンクの設立までの経緯と、日本初の非血縁者からの骨髄ドナー誕生までを紹介。予想以上の反響がドナー登録者30万人の一日も早い達成の力になることが大いに期待される。

実際の登録に結びつくことを願って

当財団のホームページを通してのチャンスの申し込み件数(公式サイトとドナーズネットの合計)は番組が放映された2月は3909件、翌3月も1770件に上り、新規登録も例月の倍近くの申し込みがあった(下グラフ参照)。

日本初の非血縁骨髄ドナーとして番組に登場した田中重勝さんは反響について「素直に喜びたい」という。「今までバンクのことを何も知らなかった人知ってもらえたことは、スゴイことですよね。街を歩いていて道を聞かれれば、誰でも知っている範囲で答えるでしょう。同じ気持ちで一步踏み出せば、一人の命が救われるかもしれない。そういうバンク



田中重勝さん
89年提供
岐阜県骨髄献血希望者を募る会代表

の素晴らしいさを伝えられたのならうれしいですね」

大きな反響が実際の登録につながることを田中さんは願っている。肉親からの骨髄提供で命を取りとめた元患者であり、東海骨髄バンクの発起人として取り上げられた大谷貴子さんは心配して言う。



大谷貴子さん
骨髄移植推進財団理事
財団普及広報委員会委員

「番組には登場しなかった患者さんや、ドナーさん、医療関係者など、バンク設立に関わった人たちは数知れません。半年にも及んだ取材をわずか45分に凝縮された「物語」の中で、登場した人のエピソードを通して、たくさんの人たちの思いを伝えることができただしょうか」

大谷さんがバンク設立運動を始める原動力となった園上さおりちゃんとの交流は深い感動を呼んだ。「普通の高校生になって、普通のお

よめさんになって、普通のお母さんになって、普通のおばあさんになって、普通に死にたい」

番組の所要所で引用されたさおりちゃん(当時15歳)の作文だ。さおりちゃんは残念ながら移植を受けずに亡くなってしまった。番組の報告に行つた大谷さんにさおりちゃんのお母さんは言った。

「さおりはたった15年しか生きられなかったけれど、確かに生きて人のお役に立てたんですね」
その言葉に救われた思いがしたと、大谷さんは語る。

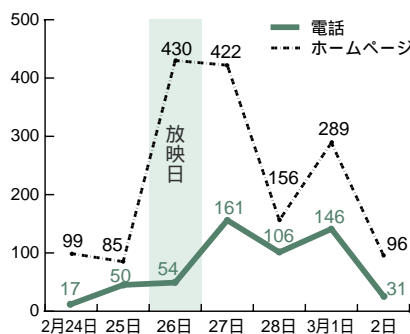
まだ終わっていないプロジェクト・バンク

「移植を必要とするすべての患者さんに適合ドナーが見つかるためには、一日も早いドナー登録者30万人到達が望まれます。番組でドナーの心境が十分語られていたのは、大きな力になるでしょう」

番組にも出演し、医療従事者の立場で東海バンク設立に携わつた森島



1日当たりの問い合わせ件数



泰雄医師は言う。「番組は完結しても、バンクプロジ



森島泰雄医師
愛知県がんセンター病院
血液化学療法部長

エクトはまだ終わっていない。一人でも多くの患者さんが救われるためにバンクの現状を訴え、命のメッセージを伝え続けなければならぬ」
田中さん、大谷さん、森島医師の思いは同じだ。

日本骨髄バンクは事業開始から10年が経過し、本年3月末までに骨髄バンクを介した移植例が4013例に達しました。ご提供いただいたドナーの皆さまには、患者さんに生きる希望、生命の贈り物をいただき、心から感謝申し上げます。なお、今号は紙面の都合でドナーのコーディネート状況を中心にお伝えします。他の各種統計につきましては、ホームページで公開しています。

アドレス <http://www.jmdp.or.jp/data/>

患者・骨髄提供者(ドナー)のコーディネート状況

2002年3月末現在、1992年からの累計

ドナー登録者数 15万2339人

患者登録者数 1万2253人

(2次検査終了ドナー数:15万1614人)
年齢超過や、登録辞退者などを除いた有効登録者数です

(患者登録者現在数:1691人)

HLA検索

HLA適合ドナー数 6万509人

HLA適合患者数 1万139人

HLA適合者数はHLA-A,B,DR座が適合したドナーの累計数です

HLA-A,B,DR座が適合した患者の累計数です

確認検査ドナー数 2万1476人

確認検査患者数 6753人

確認検査を実施したドナーの累計数です

確認検査を実施した患者の累計数です

最終同意・移植日程調整 4744組

ドナーの最終同意が確認され、移植・採取の日程調整に入った患者・ドナーの組み合わせです

骨髄提供・移植実施数 4013例

コーディネート中止理由について (2001年度)

患者側の理由

ドナー側の理由

確認検査前に中止

容体悪化	322 (12%)	家族の不同意	910 (14%)
容体好転	53 (2%)	健康上の理由	2340 (36%)
治療方針の変更	156 (6%)	妊娠・出産	501 (8%)
他ドナーに決定	1587 (62%)	都合つかず	1743 (27%)
HLA違い	138 (5%)	連絡とれず	560 (9%)
ドナー輸血歴	25 (1%)	本人の不同意	334 (5%)
その他	303 (12%) (件数 2584)	その他	95 (1%) (件数 6483)

確認検査実施から最終同意面談実施までの中止

容体悪化	276 (8%)	家族の不同意	64 (9%)
容体好転	48 (1%)	健康上の理由	571 (81%)
治療方針の変更	110 (3%)	妊娠・出産	6 (1%)
他ドナーに決定	2688 (82%)	都合つかず	45 (6%)
ドナー輸血歴	1 (0%)	本人の不同意	8 (1%)
HLA違い	26 (1%)	連絡とれず	2 (0%)
その他	155 (5%) (件数 3304)	その他	17 (2%) (件数 713)

最終同意説明会実施後、骨髄提供に至らなかったもの

容体悪化	69 (70%)	家族の不同意	18 (29%)
容体好転	3 (3%)	健診で不適格	29 (45%)
治療方針の変更	12 (12%)	健康上の理由	11 (17%)
他ドナーに決定	1 (1%)	都合つかず	1 (2%)
その他	14 (14%) (件数 99)	連絡とれず	1 (2%)
		その他	3 (5%) (件数 63)

ドナーフォローアップ報告

採取翌日の症状・検査結果

38度以上の発熱	471/3473 (13.6%)
ほとんどは1日で解熱しています。	
排尿時痛	318/3624 (8.8%)
導尿カテーテルを抜いた後の痛みや違和感です。	
採取部位の異常	72/3679 (2.0%)
針を刺した部位の腫れ・出血・血腫等です。	
感染症	65/3682 (1.8%)
針を刺した部位のものではなく、上気道炎(かぜ)や尿路感染症によるものです。	
肝機能障害	95/3654 (2.6%)
いずれも一時的なものです。	
採取翌日の歩行	
歩行不可	32/3627 (0.9%)
ほぼ歩行可能	1087/3627 (30.0%)
歩行に問題なし	2340/3627 (64.5%)

入院中の投薬について (主に採取当日・翌日)

抗生物質(ごく短期間使用)	2635/3684 (71.5%)
鎮痛剤	1267/3678 (34.4%)
鉄剤	941/3673 (25.6%)
解熱剤	485/3686 (13.2%)

骨髄採取、麻酔に伴う合併症について

血圧低下	207/3663(5.7%)
麻酔中の収縮期圧が80mmHg以下になったと記されたものです。いずれも一過性のものです。	
血尿	40/3635(1.1%)
ほとんど導尿カテーテル挿入の刺激によるものです。大半は肉眼ではわからない程度のもので、いずれも改	

善されています。

不整脈 22/3697(0.6%)
いずれも一過性のもので、改善しています。
義歯の損傷・ぐらつき 8/3697 (0.2%) 全身麻酔のための気管チューブを入れる時、または抜く時に起こっています。さし歯のある人は予めお申し出ください。
採取針の破損 17/3697(0.5%)
採取中に採取針が折れたという報告です。皮膚を切開して取り出した例もあります。

左手尺骨神経障害(1例)

骨髄採取中の尺骨神経圧迫が原因と推定される、尺骨神経障害を発症し、左手尺側(第4・5指)に知覚障害が残りました。

一過性の片麻痺と一部軽度の知覚低下の残存(1例)

全身麻酔覚醒後、一過性の左半身麻痺を生じましたが、急速に自然回復し、採取3日後には退院、日常生活に復帰しています。が、左手尺側(小指の付け根部分)に軽度の知覚鈍麻としびれ感が残りました。

喉頭肉芽腫(1例)

気管チューブを入れる刺激によって、喉頭に良性的腫瘍ができ、手術により切除しました。(なお、気管チューブの刺激により声が変わることがまれにあります)

右下腿深部静脈血栓症(1例)

骨髄採取後、右下腿深部静脈に血栓が認められました。治療の結果、血栓は消失しました。

左下肢痛(1例)

骨髄採取後、左大腿部から膝にかけて痺れが出現し、採取部位の痛みが長期間残存しました。日常生活には復帰しましたが、痛みは完全消失しませんでした。その後徐々に改善傾向を示し、フォローアップを終了しました。

その他の合併症

骨片の残存・既存の腰痛悪化による再入院・難聴の一時的悪化・骨髄採取部位の皮膚炎・菌血症/化膿性仙腸関節炎・点滴部位の長期にわたる静脈炎・骨膜炎・筋膜炎腰痛症・採取針の圧迫等による大腿部外側皮神経損傷・急性化膿性扁桃腺炎・左右両臀部筋肉出血・気管支肺炎・角膜びらん・皮下血腫・左大腿部皮神経障害・腰椎椎間板ヘルニア(以上各1例ずつ)硬膜外麻酔による硬膜損傷・腎盂腎炎(各2例ずつ)いずれも治癒又は消失しています。

経口避妊薬服用について

2001年、経口避妊薬(ピル)服用により、入院時検査にて薬害性肝機能障害が疑われ、骨髄採取が4日延期された事例が発生しました。当財団では、ドナーに対するリスクを防ぐため、骨髄採取予定ドナーにあたっては、採取4週間前から、その服用は中止していただくことになりました。理由:医薬品添付文書にて、以下が指摘されているため。

禁忌情報として、手術前4週間術後2週間は服用を中止すること。

重大な副作用として、血栓症の恐れがある。副作用として、肝機能障害等の可能性がある。薬剤によって、添付文書の内容が若干異なっています。

ドナー休暇制度

提供のための環境整備

負担軽減のために

企業や団体等に勤務する方がドナーになる場合、登録をはじめとする数段階の手続きや検査、入院などのために、平日に休暇をとらなければならぬことが負担となります。ドナー登録に二の足を踏む原因となることも少なくありません。

こうした負担を軽減し、骨髄ドナーとなりやすくするために官公庁や一部企業で導入されているのが「ドナー休暇制度」です。適用範囲、期

間、休暇の上限などはさまざまですが、いずれの場合も、通常の有給休暇とは別枠で有給扱いとなるというものです。

1993年4月に人事院が国家公務員に対し「ドナー休暇」を制度化した後、制度導入に踏み切る企業も現れましたが、まだまだ、少数のようです。

財団設立10周年に際し実施した骨髄提供者へのアンケートにはこんな

記述がありました。

私がドナーに選ばれてから職場でドナー休暇制度が新設され、有給扱いになりました（石川県・女性）
社員の登録がきっかけで制度を導入した企業は他にもあります。

ドナー休暇が制度化されていなくてもケースバイケースで認められることもあります。

骨髄採取のため入院するので有給休暇をおねがいしたら上司が「俺が特別休暇にしてみよう」と本社に頼んでくれ、3日後OKがでました（岐阜県・男性）

時期尚早ということで制度化されていなかったが、人事課長の判断で出勤扱いになりました（千葉県・男性）

昨年、骨髄提供した中島朝雄さんはキャンペーンサイト「ドナーズネット」のインタビューでこう話しています。「僕の会社には骨髄ドナー休暇がなかったので、採取入院は有給休暇を使って対応しました。でも、長い目でみれば何日か休むくらいどうってことないですよ。僕はまた適合する方がいたら、是非そのときも提供に応じたいと思っています。」

「いのちのボランティア」といわれる骨髄提供。しかし、個人の善意に頼りすぎることなく、少しでも負担を軽減し、一人でも多くの方が登録しやすい社会全体の環境整備のため、骨髄バンクでは各方面への働きかけを続けてまいりたいと思います。

TOPICS

ドナー休暇制度導入

ソニー生命保険株式会社

ソニー生命保険(株)では、今年4月、ドナー休暇制度を導入しました。同社は以前から営業職員を中心に社会貢献活動やボランティア活動が活発で、経営陣の理解も深く支援に積極的なため「ドナー休暇制度」の導入もスムーズに運んだといえます。

今年4月に開催された研修会でも、映画「いのちのあさがお」の上映や、主人公の丹後光裕君のお



母さん、丹後まみこさんの講演が行われました。同社にはすでに相当数のドナー登録者がいらっやうて、企業ぐるみの支援体制が確立しています。

INFORMATION

骨髄バンクが
お手伝いできること

1「証明書」の発行

ドナー登録から骨髄採取後の健康診断までの各過程で、その手続きがなされたことの証明書を発行します。

ご希望の方は登録窓口、地区事務局、コーディネーターにお申し出ください。

2「予定通知」の発行

確認検査や最終同意面談、術前健診、入院や術後健診などについてはその日程が決まった段階で、ドナーの方からご希望があれば、コーディネーターがその要否を確認した後、「予定通知」を発行します。面談や検査が実際に行われる前に検査の「予定」としてお知らせするもので休暇を取っていただきやすくする主旨のものです。

3ドナー休暇制度導入のための資料送付

制度導入をご検討いただける場合には、関連資料をお送りいたします。当財団広報渉外部にご請求ください。

開催予定・約2000回！

骨髄バンクのドナー登録者は今年2月末で15万262人を数え、ようやく目標の半数に到達しました。98年8月に10万人に到達してから3年半。12月から13万人まで、13万人から14万人までがそれぞれ1年かかりましたが、14万から15万人までは7カ月で達成できました。昨年度は、集団登録会が212回、献血併行登録会は480回開催され

ました。こうしたキャンペーン登録会での登録者は年間1万人を突破し、ドナー登録場所と受付方法に関する構造転換は、間違いなく登録者増加の大きな推進力となっています。本年度もすでに多くの都道府県で具体的な計画が示されています。

TOPICS

集団登録会 4/28

川崎市あさひ銀行川越支店特設会場
小学5年生の息子さんが急性骨髄性白血病で治療中の平野肇さん(37)の「息子と一致する型を見つけるというかすかな望みをかなえるために」という熱意をサポートするかたちで、平野さんが総務委員をされている川越青年

会議所と地域のボランティアの協力を得て開催されたものです。

息子さんの看病に転院など忙しい中をひたすら市役所や新聞社、息子さんが通学している小学校に告知チラシやポスターの掲出をお願いして廻った精力的な活動は、我が子を思う心から実現したものです。

国会登録会 2/26
国会に献血車が入ったのは初めての

こと。当日は多くの報道陣が詰め掛けました。国会議員や職員81人が献血し、39人(うち国会議員は5人)がドナー登録をしました。坂口力厚生労働大臣も国会審議の合間をぬって訪れ、献血に協力しました。企画段階から当日の運営までの、骨髄バンク議員連盟(会長・野田聖子衆議院議員)と関係者の皆さまのご理解とご尽力に、あらためて、深く感謝申し上げます。

Thanks!!

非血縁者間骨髄移植

4000例から5000例へ

2002年3月27日に、4000例を突破した日本骨髄バンクを介した移植件数は、その後も順調に伸びており、5月末現在に4145件となっています。これは、実にドナー登録者の36人に1人が実際の提供を行っていることになります。改めて提供いただいたドナーの方々に感謝いたします。来年の今ごろには5000例の大台を突破すると思われまます。国際的にみても、日本の骨髄バンクは人口当りで米国のバンクと同等の仲介を行っており、世界最先端のバンクのひとつと言えます。

アンケートにご協力
ありがとうございました!

日本骨髄バンクを介して骨髄移植された患者さんと、提供されたドナーの方々に、昨年11月アンケート調査を行いました。骨髄バンク10周年を記念し、厚生労働省の研究班との共同研究として、今後の改善に役立てることを目的に、ご協力をお願いしたものです。現在、集計中ですが、今回はドナーの方々へのアンケート項目の一部をご紹介します。対象者は1992年1月~2001年9月までの提供ドナー3500人。回答数は1759人、住所不明で返送は385人でした。

- ドナー登録者になるうとした動機は?

命を救うために役立ちたい	811	46.1%
献血の延長だから	368	20.9%
テレビや本、雑誌、新聞を見て	241	13.7%
家族・友人に患者がいたから	162	9.2%
その他	167	9.5%
- コーディネーターの態度は?

よかった	1492	84.8%
普通	233	13.2%
悪かった	14	0.8%
不明	20	1.1%
- 採取部の痛みは思っていたより

軽かった	780	44.3%
普通	572	32.5%
重かった	385	21.9%
不明	22	1.3%
- 骨髄提供したことを精神的に

満足している	1453	82.6%
特になんとも思わない	282	16.0%
後悔している	8	0.5%
不明	16	0.9%
- もう一度依頼されたら提供しますか?

したい	1372	78.0%
したくない	24	1.4%
出来ない(病気、年齢超過など)	101	5.7%
どちらとも言えない	247	14.1%
不明	14	0.8%

あさひ銀行特設会場

国会登録会場受付



あなたもサポーター

厳しい財政状況の中で、郵送費を抑えるためバンクニュースは16ページから8ページに変更となりました。ご了承ください。

骨髄バンクは皆さまの善意に支えられています

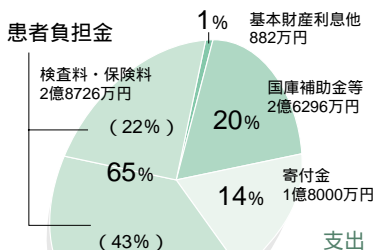
Message

がんばればがんばるほど、赤字になる骨髄バンクには 皆さまのご支援が欠かせません

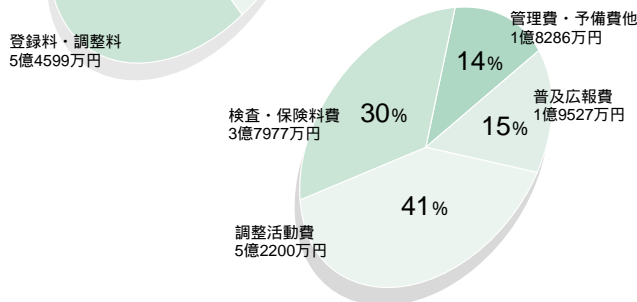
骨髄移植推進財団は現在、一人でも多くの患者さんに、少しでも早く移植の機会を提供することを目標に、全力をあげて取り組んでいます。特にここ数年は、業務のコンピューターシステム化とコーディネート体制の充実などにより、毎年大幅に移植件数を伸ばしてきましたが、骨髄バンク事業は移植件数の伸びに見合った形で収入が増加しないため、件数を伸ばすほど赤字が増える構造にあります。寄付金も国の補助金も、不景気のあおりを受けてほぼ横ばいであるため、このままでは財団の財政が破綻してしまうことから、大変不本意ながら、今年の4月から患者さんの負担金を値上げしました。グラフからもおわかりのとおり、いま財団の運営経費の約65%は患者さんのバンク利用料で賄われているという状況です。日本は今、政治や経済の状況が不安定な時代を迎えています。善意で支えあう骨髄バンク制度をより充実させて、患者さんの命を救うため、どうか皆さまのご理解とご支援をお願いします。

平成14年度の予算

収入 12億8503万円



支出 12億7990万円



日本小型自動車振興会からの補助について
本年度も普及啓発ポスター、パンフレット、リーフレットは「オートレース公益資金」の補助により発行しています。

募金ご協力の お願い

骨髄バンクに皆さまの善意をお寄せください。ご寄付は下記の3つの方法からお選びください。もちろん、金額はご自由です。よろしくお願い申し上げます。

1.郵便振替

本紙に折込みの振込用紙にて
最寄りの郵便局からお振り込みをお願いいたします。
手数料は無料です。当財団が負担しています。

2.銀行振込

フリーダイヤル0120 377 465までお電話ください。
みずほ銀行本支店間での振り込み手数料が無料になる専用
振込用紙をお送りします。

3.電話でクレジットカード募金

ご使用になるカードをお手元にご用意のうえ、
フリーダイヤル0120 377 465まで お名前・ご住所
電話番号、カード会社、カード番号、カードの有効期限
ご寄付の金額をお知らせください。

あなたのご援助で、こんなことができます

¥3,000 ■■■ パンフレット×120部

¥10,000 ■■■ ポスター×150枚

¥100,000 ■■■ ドナー登録会開催

「骨髄バンクNICOSカード・ 骨髄バンクNICOS VISAカード」のご案内

クレジットカードによるお支払額の0.5%が骨髄バンクに寄附される、骨髄バンクサポーターカードは、毎年入会された月に、指定された1万円または3千円が自動的に寄附される仕組みもついています。カードの種類はNICOS、NICOS VISAカードそれぞれ一般会員（寄附金なし）・サポーター会員（寄附金3000円）・特別会員（寄附金10,000円）です。フリーダイヤル0120-377-465まで、入会申込書をご請求ください。

お問い合わせ・資料請求は
日本骨髄バンク

フリーダイヤル

0120-445-445

<http://www.jmdp.or.jp/>

ドナーズネット

<http://www.donorsnet.net/>